

ミャンマー中部乾燥地における緑化活動

熱帯降雨林に属するミャンマー連邦の中部に位置する、マンダレー、サガイン、マグウェという3つの行政管区は、総面積 872 万ヘクタールを占めていますが、その約 21.4%、187 万ヘクタールが広大な乾燥地となっています。その昔、11～13 世紀に栄えた、ミャンマー最初のバガン王朝時代、王様を初め、人々は大変熱心な仏教徒でありました。仏教に帰依している証として、人々は、4,000 以上の仏教寺院やパゴダを建設しました。現在では、およそ 2,400 あまりの寺院とパゴダの遺跡が、約 42Km² のイラワジ河畔に広がっています。このような大規模な寺院とパゴダを建設するためには、大量のレンガを必要とし、そのレンガを焼くために、たくさんの木々が伐採されました。加えて、その後の人口増大は、薪炭エネルギーとしての木々伐採に拍車をかけ、家畜の増大は幼樹の葉を食べ尽くすところとなり、森林は消滅し、年間降雨量、500～600 ミリという乾燥地が 187 万ヘクタールへと拡大してしまいました。現在、政府はこの乾燥地域を 30 年かけて緑化する計画を進めており、村々の共有林推進計画も進められています。

かつて 1987～1990 年に、JICA の事務所長として、ミャンマーに勤務していた私は、2007 年に「ミャンマー日本・エコ・ツーリズム」という NGO を設立し、日本からの学生主体の観光客をバガンに派遣し、観光と植林を結び付けたエコ・ツーリズムを実践しています。植林は、バガン近郊の二つの村において、日本人観光客と村人がパートナーとなって、一緒に植林を行います。Than Sin Kyae 村は、200 世帯、1000 人。East Phar Saw 村は 100 世帯、500 人が住んでいます。植林された苗木には、植林寄贈者とパートナーの名前がついた名札がつけられます。夕方には、村人と日本からの旅行者がお互いに歌、踊り、芝居などの出し物を出しあって、芸能交流会を楽しみます。

村人は、緑化委員会を設立し、植林後 3 日毎に村人が交代で水やりを行っています。植林募金に寄贈した人に対しては、6 か月毎に 2 年間、苗木の生長を記録した「モニタリング・レポート」が e-mail で写真と共に届けられます。以下の写真はその植林活動のアルバムです。

(活動の詳細は <http://www.mjet-tokyo.com> を参照)



バガンの遺跡群 (42 k m²)



乾燥地のまばらな灌木群



近くの村で校舎不足のため使用中の藁屋根教室



藁屋根小学校の授業風景

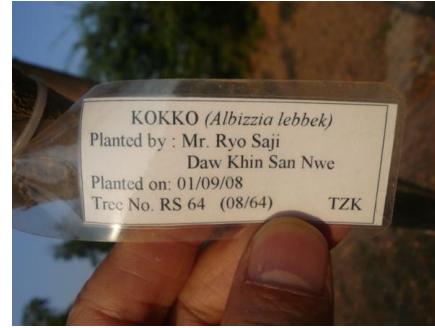
MJET 植林ツアーの学生と村人による植林と交流会



植林ツアー参加学生とパートナーが一緒に植林



村の学校の先生と生徒と一緒に植林する女性参加者



全ての植林した苗木に寄贈者と村のパートナーの名前をつけた名札



新しい村で村人と一緒に植林



村人と一緒に共有地に植林



池の水を汲んで植えた木々に水やり



交流会で踊る村の小学生



交流会で踊る小学生



日本人参加者の水祭りの踊り



6か月で成長した家族の森



村人の日課となっている水汲み



村の婦人の機織り